FUJIFILM

株主のみなさまへ

FUJIFILM NEWS

December 2007 vol.73

株主の皆さまへ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平成19年度中間期の業績の振り返り

当中間期（平成19年4月1日～9月30日）の連結売上高は、1兆4,080億円（4.1%増）となりました。具体的には、デジタル医療画像関連製品を中心に販売が増加したメディカルシステム事業、需要拡大に伴い生産能力の増強を進めているフラットパネルディスプレイ材料事業をはじめとしたインフォメーション ソリューション部門が好調に推移しました。また、ドキュメント ソリューション部門も海外を中心にデジタルカラー複合機の売上が堅調に推移したほか、為替レートが円安に進行したこともプラスに影響しました。

営業利益については、アルミや銀などの主要原材料価格が高水準で推移したほか、第2四半期より減価償却方法を見直したことに伴い減価償却費が増加しましたが、各事業分野における販売数量の増加や為替レートの円安効果に加え、前年度まで集中的に実施した構造改革による固定費の削減効果などが寄与し、1,086億円（114.0%増）と大幅増益を達成しました。なお、売上高・営業利益ともに、中間期として過去最高の実績となりました。税引前利益については1,147億円（102.7%増）、当期純利益は646億円（171.6%増）となり、ともに大幅増益となりました。

※ 増減率は、いずれも前年同期比

通期業績見通し

通期の業績予想では、営業利益へのマイナス影響として減価償却方法の変更や「スリム&ストロング活動」費用、原材料価格や為替の動向などにより約400億円の負担があると見込まれます。しかし、拡販やコストダウンの推進によってこれらのマイナス要因を吸収し、営業利益、税引前利益ともに2,100億円と、当初予想よりそれぞれ100億円の上方修正といたしました。

株主還元について

今年度より、配当と自社株買いとを合わせた株主還元性向の目標を25%に設定いたしました。これに基づき、中間期の配当金は5円増配の17円50銭とし、年間配当では10円増配の35円を予定しております。なお10月1日から15日までに、147億円の取得額で270万株の自社株買いを行いました。

中期経営計画「VISION75（2007）」の取り組み

「VISION75（2007）」では、“成長戦略のさらなる推進”と“強靭な企業体質の実現”をテーマに、重点事業分野への投資の強化や、製造原価の削減、販売費及び一般管理費比率の低減、研究開発費の効率使用を目的とした「スリム&ストロング活動」を推進しております。

その一環として平成19年7月に、当社グループ企業の総務（オフィスサービス）、人事（福利厚生など）、保険・旅行代理業務の機能を集約し、グループ内に提供するシェアードサービス会社富士フイルムビジネスエキスパート（株）を設立しました。10月には間接材購買機能も取り込み、共通業務の集約によるスリム化、業務プロセスの標準化・統合化などによる徹底した効率化を図っております。

またデジタルカメラ事業では、厳しい競争市場向けに最適化した強固な事業基盤を構築するため、デジタルカメラ生産の中国全面移管とCCD前工程生産の外部委託によってコスト競争力の強化を図るとともに、当社開発力と外部委託先の技術力を融合させ、特長ある独自のスーパーCCDハニカムのさらなる高性能化・高機能化をスピーディーに進めていきます。

「第二の創業」を掲げ新たな成長に挑戦している当社は、差別化された独自の価値を生む強力なR&D体制を構築し、競争力の源泉となる柔軟でパワフルな社員の育成を進め、変化と前進にチャレンジする企業風土作りを行ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

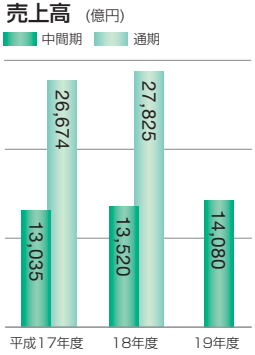
平成19年12月

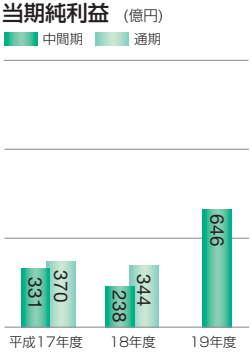
代表取締役社長・CEO 古森重隆

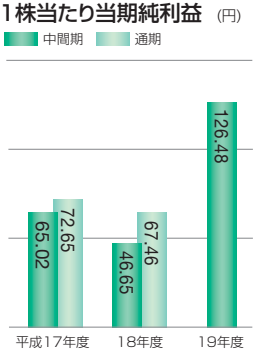
財務ハイライト

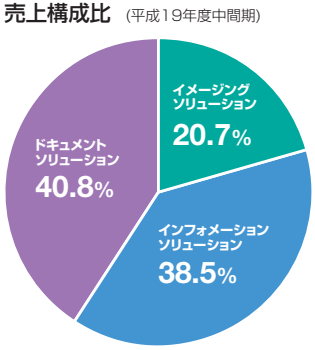
単位:百万円（1株当たり中間純利益、中間配当金を除く）

	平成19年度中間期	平成18年度中間期
売上高	1,408,074	1,352,036
営業利益 (構造改革費用影響を除いた営業利益)	108,662 (—)	50,779 (92,761)
税引前利益	114,767	56,630
中間純利益	64,647	23,802
1株当たり中間純利益(円)	126.48	46.65
1株当たり中間配当金(円)	17.50	12.50
研究開発費	90,773	90,592
設備投資額	76,574	67,107
減価償却費	109,005	109,941
資産合計(期末)	3,346,960	3,215,801
資本合計(期末)	2,024,090	1,983,002





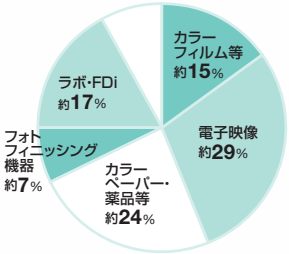




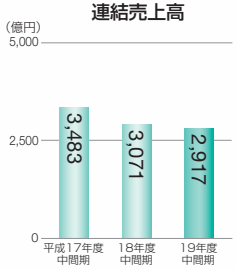
イメージング ソリューション

イメージング ソリューション部門は、カラーフィルム、デジタルカメラ、フォトフィニッシング機器、写真プリント用のカラーペーパー・薬品・サービス等から構成されています。

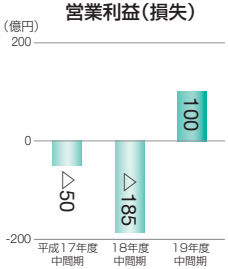
事業別売上構成比



連結売上高



営業利益(損失)



※構造改革費用として、平成17年度中間期は76億円、平成18年度中間期は298億円を計上しています。

構造改革によるコスト効果及び為替レートの円安効果により営業利益100億円の黒字に転換

イメージング ソリューション部門は、カラーペーパーの販売が市場シェアアップによって拡大、デジタルカメラが販売好調だった一方、カラーフィルムやデジタルミニラボの需要後退、総合ラボでの現像サービスの売上減少の影響などにより、売上高は2,917億円(5.0%減)でした。

カラーフィルムについては、市場縮小が続き売上は減少しましたが、競合の市場撤退や販売促進が奏功し、当社の市場シェアは上昇。電子映像事業分野では、8月以降「FinePix」シリーズをフルモデルチェンジし、進化した「顔キレイナビ」搭載の「FinePix F50fd」、高機能スリム「FinePix Z100fd」、ロングズームタイプ「FinePix S8000fd」を相次いで発売、海外で好調な「FinePix Z10fd」と合わせて差別化を図り、ワールドワイドでの販売数量を36%増と伸ばしました。

カラーペーパーについては、デジタルカメラやカメラ付き携帯電話からのお店プリント獲得に向けた販促活動を強化した結果、売上が増加。また、三菱製紙(株)と写真分野で事業提携し、効率的で安定的な生産体制の構築を進めています。フォトフィニッシング機器分野では、ノーリツ鋼機(株)と国内メンテナンス会社を統合して、新会社を設立し、より効率的なメンテナンスサポート体制を構築しています。

※ 増減率は、いずれも前年同期比

横顔も検出可能な進化した「顔キレイナビ」、高感度+手ブレ補正機能を搭載した「FinePix F50fd」

横顔や首を斜めに傾けた顔でも瞬時に見つけ出せるように進化した、世界最速の顔検出機能「顔キレイナビ」を搭載しました。幅広い人物撮影で正確なピント、露出、ホワイトバランスが得られます。

さらに、CCDシフト方式の「手ブレ防止機能」を搭載し、定評ある高感度との相乗効果で、室内や夜景などの暗いシーンでも手持ち撮影が可能に。有効画素数1,200万画素のスーパーCCDハニカムとも相まって、高精細・高画質なデジカメ撮影をカンタン操作でお楽しみいただけます。

▲正面だけでなく、横、斜め顔も検出できる「顔キレイナビ」

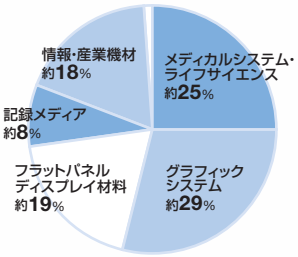
Close up → 「"PHOTO IS" 10,000人の写真展」を日本全国で開催

「あなたにとって写真とは?」をテーマにした、日本最大の参加型写真展「"PHOTO IS" 10,000人の写真展」を、7月6日の東京ミッドタウンを皮切りに、全国7都市で開催しました。写真展では、銀写真プリントで大きく引き伸ばし、「PHOTO IS ○○○」という写真に込めるメッセージが添えられた作品を展示。家族、ペット、仲間、旅など、それぞれ想いのこもった作品10,568点(総数)に、約76,000人(期間計)の来場者が感動しました。富士フイルムは今後もこうした活動に積極的に取り組み、写真文化の維持発展に努めていきます。

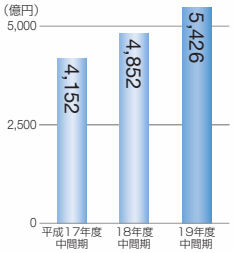
インフォメーション ソリューション

インフォメーション ソリューション部門は、メディカルシステム・ライフサイエンス機材、グラフィックシステム機材、フラットパネルディスプレイ材料、記録メディア、光学デバイス、電子材料、インクジェット用機材等から構成されています。

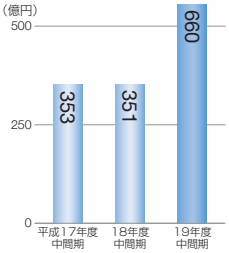
事業別売上構成比



連結売上高



営業利益



※構造改革費用として、平成17年度中間期は3億円、平成18年度中間期は122億円を計上しています。

メディカルシステム、フラットパネルディスプレイ材料、カメラ付き携帯電話用レンズユニットなど主要事業が堅調に推移し、売上増・大幅増益

インフォメーション ソリューションは、デジタル医療画像関連製品を中心に販売が増加したメディカルシステム事業、需要拡大に伴い生産能力を増強しているフラットパネルディスプレイ材料事業、印刷版材CTPプレートなどのグラフィックシステム事業が牽引し、売上高5,426億円(11.8%増)、営業利益660億円(88.2%増)と大幅増益となりました。

メディカルシステム・ライフサイエンス事業では、海外を中心に「FCR」、ドライフィルムなどの機器・材料の販売が好調に推移。医療機関のIT化が進む中、医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」も販売が拡大。内視鏡では、日本及びアジア市場における「経鼻内視鏡」の販売増、欧米市場における代理店網強化などにより、売上が増加しました。

グラフィックシステム事業では、CTP化の進展に応じた生産能力拡大が売上増に寄与。また、英国FUJIFILM Sericol社製の耐候性に優れたUVインク・溶剤インクに対応する業務用インクジェットプリンターの販売を、4月より北米市場で開始しました。

フラットパネルディスプレイ材料事業では、液晶ディスプレイ市場での旺盛な需要に支えられた主力製品「フジタック」「WVフィルム」の売上が伸張しました。

情報・産業機材事業では、光学デバイス分野で、カメラ付き携帯電話の高画素化・高付加価値化ニーズによる、小型・軽量・高画質でオートフォーカス・ズームに対応した当社レンズユニットが高く評価され、売上が大幅に拡大しています。

※ 増減率は、いずれも前年同期比

生活習慣を改善したい方の健康サポート マルチサプリメント「メタバリア」「オキシバリア」

体の隅々まで有用成分を浸透させるため、ケミカル成分を自在に制御する先端技術を活かし、2つのマルチサプリメントを誕生させました。

「メタバリア」には、インドなどで古くから健康のために愛用され、ダイエット成分が含まれると注目の"サラシア"を配合しました。糖や脂肪の多い食事をしがちな方や、体内環境を改善したい方におすすめです。

「オキシバリア」には、コエンザイムQ10の約1,000倍※のパワーを持つ"アスタキサンチン"を配合しました。日々のストレスなどによる体へのダメージを低減し、健康維持に効果的です。お酒をよく飲む方にもおすすめです。

※当社調べ

富士フイルム ヘルスケア ラボラトリー
Web http://www.ffhc.jp 電話 0120-596-221

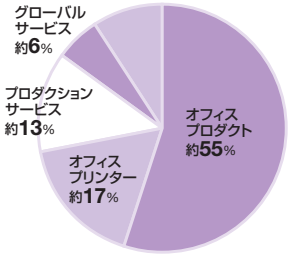
Close up → 富士フイルム九州「フジタック」第2工場 本格稼働

フラットパネルディスプレイ材料事業の主要製品「フジタック」の中核生産拠点である富士フイルム九州は、昨年10月の第1工場に続き、8月末、第2工場を本格稼働させました。「フジタック」は、偏光板保護フィルムとして抜群の透明性・平滑性・光学特性を誇り、液晶ディスプレイに不可欠な材料です。昨今の液晶テレビや液晶PCモニターの需要拡大に伴って、当製品の出荷も急増しており、今後も必要に応じて生産能力の増強を行います。

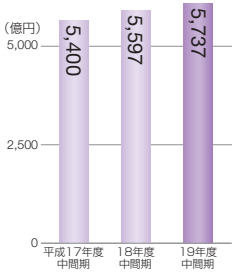
ドキュメント ソリューション

ドキュメント ソリューション部門は、オフィス用複写機・複合機、プリンター、プロダクションサービス関連商品、用紙、消耗品、オフィスサービス等から構成されています。

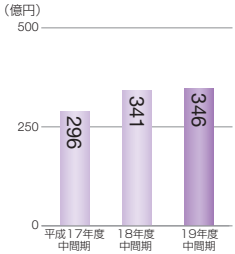
事業別売上構成比



連結売上高



営業利益



ネットワーク機能を充実させたオフィス向けデジタルカラー複合機の拡販に努め、海外を中心に売上が堅調に推移

ドキュメント ソリューション部門は、デジタルカラー複合機やオンデマンド・パブリッシング(POD)システムのアジア・中国地域での販売及び欧米向け輸出が好調に推移し、売上高は5,737億円(2.5%増)でした。

オフィスプロダクト事業では、国内で、基幹系業務システムとの連携とセキュリティ機能を強化した中高速カラー複合機「ApeosPort-Ⅱ C7500/C6500/C5400」、低価格・高付加価値ニーズに対応したカラー複合機「DocuCentre C2100」の販売が増加。また、アジア・中国地域のカラー機販売の大幅増、複合機の欧米向け輸出の増加に伴い消耗品も販売増となりました。

オフィスプリンター事業では、低価格・省スペース・省エネ設計のA3対応カラーレーザープリンター「DocuPrint C3050」などを中心に、自社ブランド商品が販売増の一方、国内及び欧米向け輸出のOEM機が、供給先の販売が総じて低調に推移した影響を受け、売上が減少しました。

プロダクションサービス事業では、PODシステムの国内販売がやや低調に推移したものの、欧米向け輸出でカラーエントリーモデルの「DocuColor 5000 Digital Press」の販売、アジア・中国地域においては同機に加え、モノクロで高速・高精細の中規模システム「DocuCentre f1100 GA」の販売が増加しました。

グローバルサービス事業では、ドキュメントアウトソーシングビジネスが国内外ともに引き続き伸張。また内部統制アドバイザリーセンターを開設し、「Apeos PEMaster」導入企業を対象に内部統制推進の支援サービスを開始するなど、サービス事業の拡大を進めています。

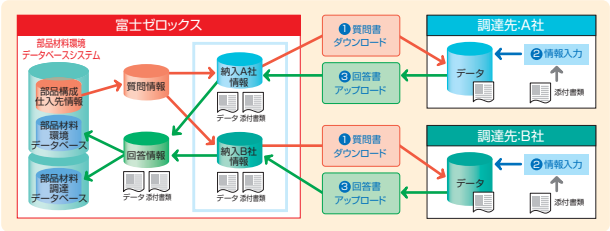
※ 増減率は、前年同期比

文書管理ソフトウエア「DocuWorks」の国内累計出荷数200万ライセンスを達成

パソコンなどで作成した電子文書と、デジタル複合機やスキャナーで取り込んだ紙文書を、まとめて保管・編集・管理できる富士ゼロックス独自の文書管理ソフトウエア「DocuWorks」。平成10年9月に販売開始し、今年5月に国内累計出荷数200万ライセンスを達成しました。内部統制の強化や日本版SOX法対応などのほか、環境に配慮した紙文書削減の動きが進み、より効率的な文書管理のため大手企業や官公庁を中心に、1,000ライセンス級の大型導入が相次いでいます。

Close up → 国内外の調達先と連携し、化学物質情報収集の仕組みを構築

RoHS指令やREACHなど、製品に含まれる化学物質に関して、世界的に規制が強化されています。富士ゼロックスでは、化学物質情報や付随する証明書などを調達先からネットワークを通じて収集するシステムを開発し、10月から稼働しました。国内外すべての調達先(現在 約1,000社)と連携し、段階的に展開予定です。原材料から製品化までさまざまなプロセスで必要な調達品の化学物質情報を、データベースで一元的に管理。従来その都度、調達先に調査依頼し提出を求めていたデータや証明書類も、一度のシステム登録で再利用が可能になり、製品安全の保障とともに業務の効率化も図っています。



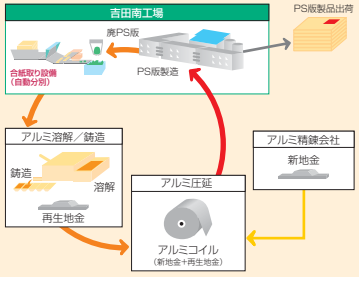
「持続可能な発展」のために

富士フイルムグループの一歩先行く環境への取り組み

21世紀の地球にとって最重要課題である「持続可能な発展」に貢献するため、
富士フイルムグループでは、資源リサイクルの質的改善や地球温暖化防止などに積極的に取り組んでいます。

1 オフセット印刷用刷版材料「PS版／CTP版」 生産工程における廃材アルミニウムのクローズドループリサイクル技術を確立

新聞・雑誌などの印刷工程で使用されるPS版／CTP版は、良好な印刷特性や高い生産性を確保するため、純度の高いアルミニウムを支持体として使用しています。富士フイルムでは、生産工程で出る端材などの廃材アルミニウムは、不純物許容範囲の比較的広い他のアルミ製品原料に回していましたが、この廃アルミを製品に再利用する新たな生産技術を開発。富士フイルム 吉田南工場にて廃アルミのクローズドループリサイクル体制を構築し、稼働を開始しました。これにより、アルミの精錬から製品製造に至るトータルの過程で発生するCO_2排出量を、74％削減することができます。



◀印刷用刷版材料のクローズドループリサイクルの仕組み

2 植物由来成分30％（重量比）以上の バイオマスプラスチックを開発

石油から精製されるプラスチックの割合を少なくし、植物由来成分を多く使うことで、CO_2排出削減を目指すバイオマスプラスチック。しかし植物由来という性質上、難燃性や衝撃強度の確保が難しく、また高温多湿の環境では分解してしまうという問題があり、これまでオフィス機器への利用は困難でした。

富士ゼロックスは、高度なケミカル技術を持つ富士フイルムと協力のもと、これらの問題を解決し、植物由来成分30％（重量比）以上のバイオマスプラスチックを開発しました。可動部品への採用も可能なバイオマス樹脂の開発は、業界初です。このプラスチック製部品を順次商品に取り入れることにより、従来のABS樹脂プラスチックを使用した場合に比べ、CO_2排出量を約16％削減できます。

▲バイオマスプラスチック（手前の2つ）と従来のABS樹脂プラスチック

3 中国全土からの使用済み商品・カートリッジを回収 中国で統合リサイクルシステムを構築

富士ゼロックスは、複写機／プリンターなどの使用済み商品やカートリッジを中国全土※から回収し、専用工場で64品目に徹底的に分解・分別し、再資源化する「中国統合リサイクルシステム」を構築します。中国における商品回収・リサイクルは業界初の取り組みです。これにより、商品の再資源化率96％以上、カートリッジにおいては99％の再資源化を目指しています。

※香港、マカオ、台湾を除く

▲富士ゼロックスの中国のリサイクル拠点となるFuji Xerox Eco-Manufacturing (Suzhou) Co., Ltd.。生産者の責任において「廃棄ゼロ」「汚染ゼロ」「不法投棄ゼロ」を実現し、中国の環境保全・資源保全に寄与

人々のクォリティ オブ ライフの
さらなる向上に寄与するために

富士フイルムグループの メディカルシステム事業

富士フイルムグループは、先進・独自の技術を活かし、人々の健康、クォリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与することを企業理念に定めています。これを象徴する一つがメディカルシステム事業です。当社は、メディカルシステム事業を重点分野として経営資源を集中的に投入し、事業の拡大を図っています。ここでは、今、皆様の最も身近にある富士フイルムをご紹介します。

「早期発見・早期治療」「診療の質の向上」に向けて 医師・患者さんに求められる医療の実現のために

医療が飛躍的に高度化する中で、病気をいかに早い段階で見つけるか? 早期発見・早期治療により治癒率も上がり、また医療費削減にもつながるため、医療の重要テーマとして注目されています。

富士フイルムは、創業間もないころより医療分野のX線画像診断製品を提供してきましたが、現在、これまで培ったノウハウの集大成ともいえる、早く、正確に、安全に、身体に少ない負担で病気を発見できる最先端の医療画像診断ソリューションの構築に注力しています。

診断の正確性、信頼性を高めるために

富士フイルムは、「医師にとって診やすい画像とは?」「病変を発見しやすい画像とは?」を徹底的に追求し、質の高い医療画像の提供にこだわってきました。デジタル化にもいち早く取り組み、デジタルX線画像の分野においてトップシェアを維持しています。より正確な診断をサポートする高精細な画像処理技術は、患者さんが信頼を寄せ、安心して受診できる環境づくりに貢献しています。

画像処理技術により、病変の発見をサポート「経時サブトラクション技術」

今回と前回の差分画像を作成し、時間経過による変化を際立たせ、病巣の発見につなげます。

今回撮影した検査画像

−

前回撮影した検査画像

→

経時サブトラクション画像
（経時変化を可視化）

早期発見・早期治療を進めるために

乳がん、胃がんなどのように、早期に発見・治療すれば治癒しやすい病気の検診率を高めていくことが、今、大変重要視されています。富士フイルムは、もっと多くの方に気軽に検診を受けていただけるような製品やスキームを開発しています。

デジタルX線画像診断システム「FCRマンモグラフィシステム」

乳がん検診などで使用されるマンモグラフィ（乳房X線撮影）システム。独自の画像処理技術によって撮影画像を高精細・高画質で読み取り、乳房の隅々まではっきり写し出すことができるので、乳がんの早期発見に定評があり、世界トップクラスの普及率を誇ります。

経鼻内視鏡検診車「楽診号」

「経鼻内視鏡」は、極細径化した内視鏡スコープを鼻から入れることにより、のどを通るときの苦しさを軽減。麻酔量も少なくてすみ、胃がん検診などでの採用を推進しています。

さらに、経鼻内視鏡専用の検診車「楽診号」を発売し、企業や市民の健康診断における胃がん検診の受診率向上にも貢献していきます。

診療の効率化、情報の共有を目指して ～連携の推進～

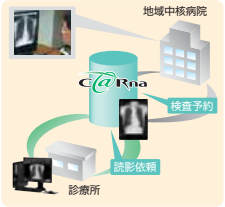
診断機器の多様化、医師の専門分野の細分化が進み、さまざまな医療情報を組み合わせて総合的に判断したり、医師間、病院間の連携を深め、診療の質を高めていくことが不可欠になってきています。富士フイルムでは、画像情報を統合・一元管理することによって、必要な情報を必要なときに取り出せるネットワークシステムの構築や、病診連携の仕組みづくりを通して、質の高い医療の提供を支援しています。

医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」

病院内の画像情報を統合的に管理する医療画像用のシステム。放射線科だけでなく、超音波・内視鏡・病理、循環器部門などとも連携させ、さまざまな画像情報を組み合わせた信頼性の高い診断を効率よく進めるように、開発を進めています。

ネットワーク医用サービス「C@Rna」（カルナ）

地域中核病院と周辺の診療所を「C@Rnaデータセンター」を介してつなぎ、検査予約、検査画像、所見などを相互にやりとりするサービス。病院と診療所で検査・診断などを連携して行うことができ、オンライン上で検査予約や、事前情報、他病院の専門医からの精緻な診断・アドバイスの授受などが可能です。



富士フイルムが技術を通じて社会貢献に取り組む姿勢をTVCMでもPR

「世界は、ひとつずつ変えることができる。」

富士フイルムの幅広い技術、事業分野をもっと多くの方に知っていただくため、今秋より新たなTVCMシリーズを展開しています。

マンモグラフィ篇

「FCRマンモグラフィシステム」開発の優れた実績と販売を通じて、乳がんの早期発見に貢献している企業であることをアピールするとともに、乳がん検診を啓発するメッセージを伝えています。

内視鏡篇

鼻から入る細いスコープでありながらフレキシブルでしなやかな操作性を実現した技術力を強調し、病巣の早期発見のための内視鏡検診を促すメッセージとなっています。

詳しくはWebサイト
http://and-fujifilm.jp
をご覧ください

連結財務諸表

■連結貸借対照表

単位:百万円

科 目	平成19年度中間期	平成18年度中間期
資産の部		
流動資産	1,623,408	1,521,710
投資及び長期債権	486,230	479,464
有形固定資産及び その他の資産	1,237,322	1,214,627
資産合計	**3,346,960**	**3,215,801**
負債の部		
流動負債	792,134	706,875
固定負債	414,063	404,457
少数株主持分	116,673	121,467
資本の部		
資本金	40,363	40,363
資本剰余金	68,872	68,412
利益剰余金	1,892,476	1,836,036
その他	22,379	38,191
資本合計	**2,024,090**	**1,983,002**
負債及び資本合計	**3,346,960**	**3,215,801**

■連結損益計算書

単位:百万円

科 目	平成19年度中間期	平成18年度中間期
売上高	1,408,074	1,352,036
営業利益	108,662	50,779
税引前利益	114,767	56,630
中間純利益	64,647	23,802

注)平成18年度中間期の連結損益計算書の利益には、41,982百万円の構造改革費用の影響が含まれています。

■連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科 目	平成19年度中間期	平成18年度中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー	151,034	115,713
投資活動によるキャッシュ・フロー	△113,641	△173,905
財務活動によるキャッシュ・フロー	△27,221	171,907
為替変動による現金及び 現金同等物への影響	△393	3,897
現金及び現金同等物 純増加・純減少(△)	9,779	117,612
現金及び現金同等物期首残高	384,719	218,598
現金及び現金同等物期末残高	394,498	336,210

株主と株式の概況

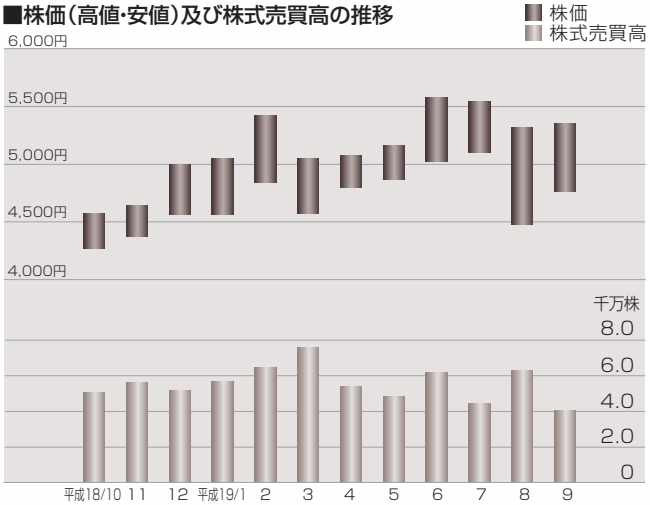
■株式の状況

	平成19年度中間期	平成18年度中間期
株主数	31,817名	29,765名
発行済株式数	514,626千株	514,626千株
	(平成19年9月30日)	(平成18年9月30日)

■所有者別分布(株式数と比率)

	平成19年度中間期	平成18年度中間期
金融機関	199,619千株(38.8%)	183,129千株(35.6%)
証券会社	6,832千株(1.3%)	9,850千株(1.9%)
その他法人	20,049千株(3.9%)	20,158千株(3.9%)
個人･その他	34,498千株(6.7%)	37,169千株(7.2%)
外国法人等	250,150千株(48.6%)	259,805千株(50.5%)
自己株式	3,478千株(0.7%)	4,515千株(0.9%)
計	514,626千株(100%)	514,626千株(100%)
	(平成19年9月30日)	(平成18年9月30日)

■株価(高値･安値)及び株式売買高の推移



株価及び株式売買高は、東京証券取引所におけるものです。

表紙写真／「朱の刻」大谷 義治氏撮影(群馬県 富士見村)
「2006美しい風景写真100人展」作品集より

会社概要

- ●設　　立　昭和9年1月20日
- ●資　本　金　40,363百万円(平成19年9月30日現在)
- ●本　　社　東京都港区赤坂9丁目7番3号(東京ミッドタウン)
- ●連結従業員数　77,555名

インターネットで当社に関する情報がご覧になれます。
http://www.fujifilmholdings.com

株主メモ

- ●事業年度末日　3月31日
- ●定時株主総会　6月下旬
- ●公告掲載　当社ホームページに掲載します。
  URL(アドレス)は次のとおりです。
  http://www.fujifilmholdings.com
  ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
- ●株主名簿管理人　東京都港区芝3丁目33番1号
  中央三井信託銀行株式会社
- ●同事務取扱場所　東京都港区芝3丁目33番1号
  中央三井信託銀行株式会社 本店
  (同送付先･連絡先)　〒168-0063
  東京都杉並区和泉2丁目8番4号
  中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
  電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
- ●同取次所　中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
  日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の中央三井信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
電話 0120-87-2031(音声自動応答)
インターネットホームページ
http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

- ●単元株式数　100株
- ●単元未満株式の買取請求及び買増請求について

単元未満株式(1株から99株の株式)の買取請求(ご売却)及び買増請求(ご購入)については、上記の事務取扱場所･取次所でお取扱いたしております。ただし(株)証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

FUJIFILM
富士フイルム ホールディングス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番3号
電話 (03)6271-1111(大代表)

FSC ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-1376
© 1996 Forest Stewardship Council

PRINTED WITH SOY INK 本誌はアメリカ大豆協会が認定する環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

GPN Green Purchasing Network グリーンサービス
印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます

FUJIFILM

ぽっこりな悩みをスッキリと。
新発想のサプリメント

NEW

メタバリア

今注目の天然素材「サラシア」配合

きっちり控える・どんどん促す・しっかり整える に働く！

体の内側からスッキリと。
新発想のマルチサプリメント

NEW

オキシバリア

CoQ10の約1000倍の健康パワー「アスタキサンチン」配合

アスタキサンチン＋α-リポ酸＋セレン亜鉛＋ビタミンC マルチで活躍！

スキンケア＆サプリメント 全商品ご購入いただけます。

東京ミッドタウン FUJIFILM SQUARE 1F
ヘルスケア商品初のアンテナショップ

FUJIFILM ヘルスケア ラボ

店内にテスターもご用意しております。

ご注文はインターネット・電話・FAXで

インターネットでのご注文 **http://www.ffhc.jp**
年中無休 24時間受付

お電話でのご注文 **0120-596-221**
9:00～19:00（年末年始除く） ※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

FAXでのご注文 **0120-796-221**
年中無休 24時間受付 （FAX専用）

株式会社 富士フイルム ヘルスケア ラボラトリー